

6. 教育プロジェクト

1) 専任・特任教員担当講義

2) 2020 年度修士論文博士論文要旨

▶ 2020 年度 IGS 専任・特任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

申琪榮（教授）

[科目名] 比較政治論（前期）

[主題と目標] ジェンダー関連の研究に取り組んでいる博士後期院生を対象に研究発表と論文執筆を目的とするゼミ。期末には研究論文を1本完成させることを目的とする。

[科目名] ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

[主題と目標] ジェンダー学際研究専攻のドクター院生を対象に論文指導を行う。

大橋史恵（准教授）

[科目名] ジェンダー政治経済学（前期）

[主題と目標] 国際社会学やフェミニスト経済学のなかの移動とジェンダーに関わる課題を扱ったテキストの講読を通じて、フェミニスト・アプローチに基づく実証的社会科学研究の手法について学ぶ。

[科目名] ジェンダー政治経済学演習（後期）

[主題と目標] 国際社会学やフェミニスト経済学のなかの再生産領域とジェンダーに関わる課題を扱ったテキストの講読を通じて、フェミニスト・アプローチに基づく実証的社会科学研究の手法について学ぶ。

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

申琪榮（教授）

[科目名] フェミニズム理論の争点（前期）

[主題と目標] 初学者を対象に、ジェンダー概念の基礎的知識を含め、1990年代以降のフェミニズム理論の新たな発展期における重要な理論的争点の理解を目的とする。「Gender, Sexuality, and Violence against Women and Minorities」をテーマに文献購読、ゲスト講義、グループワークを行う。特に Sexuality に関する議論がジェンダー概念とどう交差するのか歴史的、理論的に考察し、今日世界的に広がっているジェンダー・セクシュアリティ・ポリティクスのある様について検討する。

[科目名] フェミニズム理論の争点・演習（後期）

[主題と目標] 前期に続き、フェミニズムやジェンダー研究の基礎的概念や知識を理解した上で、1990年代以降のフェミニズム理論の新たな発展期以降取り上げられてきた重要な理論的争点に取り組み、日本語及び英語文献を読んでいく。

[科目名] 国際社会ジェンダー論演習（前期）

[主題と目標] 開発とジェンダーにかかわる課題群の分析の方法や視座に基づき、海外及び国内のフィールド調査から得たデータの分析する能力を培う。文献を批判的に読み解くとともに、各自の研究論文を効果的にプレゼンテーションする練習など、研究者として必要な基本的な能力を身につける。

[科目名] 特別研究（専攻必修）（通年不定期）

[主題と目標] 各人のテーマの修士論文の作成に係わる研究を行う。指導教員の下に、その研究に関して重要論文などの講読、検討、応用分析の手法について、意見交換・相互批判を行うなどの演習のほか、また年数回の修論報告会での報告を課し、修士論文の完成を図る。

大橋史恵（准教授）

[科目名] ジェンダー基礎論（専攻必修）（前期）

[主題と目標] ジェンダー社会科学専攻の基本講義として、フェミニスト・アプローチの重要性と有効性を学ぶとともに、ジェンダー視点に基づく社会科学研究の射程の広がり理解することを目指していく。また、文献資料の収集や文献リストの作成方法、プレゼンテーションの技法など、ジェンダー社会科学専攻での大学院生活に必要なスキルを実践的に身につける（専攻必修科目）。

[科目名] ジェンダー社会経済学演習（後期）

[主題と目標] 批判的な文献の読みを通じて、社会経済構造の変動とジェンダーに関わる理論的・実証的研究や、フェミニスト・アプローチによる現状分析の手法を学ぶ。

板井広明（特任講師）

[科目名] 国際社会ジェンダー論（後期）

[主題と目標] AIT ワークショップ（本報告書 94～95 頁参照）参加者に向けて、将来、NGO や国際機関で国際協力の仕事につくことや、国内外を問わず男女共同参画推進諸機関で働くこと、あるいは研究者としての力を培うことを希望する人材の育成を意図して、国際社会におけるジェンダーの問題を、途上国支援や持続可能な教育などを実践している現場の声を聴きつつ、理論的に検討するのが主題である。異文化におけるジェンダー概念や平等概念、フェミニズム的視点の有効性を再検討し、各自のジェンダー理解をブラッシュアップすることが目標である。

《学部》

申琪榮（教授）

[科目名] 比較ジェンダー論（後期）

[主題と目標] ジェンダー視点で日本や国際社会の問題を比較的に考察する。文献、視聴覚資料、グループワーク、ゲストスピーカーの講義などを含む多様な方法で批判的視点を培うのを目的とする。

大橋史恵（准教授）

[科目名] グローバル化と労働Ⅰ（後期）

[主題と目標] ①グローバル化という現象について知見を深める。とりわけジェンダーの視点からこの現象を批判的に考察する。②グローバル化のなかで、日本および世界の諸地域において、女性と男性の労働がどのように変化してきたのかを理解する。

[科目名] グローバル化と労働Ⅱ（前期）

[主題と目標] グローバル化と労働に関わる理論的文献を全員で講読し、討論する。とりわけフェミニスト・アプローチに基づく研究の蓄積に積極的にふれ、グローバル化という現象がジェンダー、エスニシティ、ネーション、階級、セクシュアリティ等の差別の交差性（インターセクショナルリティ）と不可分に結びついていることを理解する。

[科目名] グローバル文化学実習Ⅱ（通年不定期）

[主題と目標] グローバル文化学環が推奨する様々な機会を選び、テーマを決めて実習を行うことで、文化的多様性についての問題意識を養い、グローバル市民への素養を身につけることを目的とする。事前の学習、事後報告を義務づける。

[科目名] グローバル文化学総論（前期）

[主題と目標] 二度の世界大戦を経験した人類は、こうした悲劇を二度と繰り返すまいと、対立から共生に向けて新たな歩みを始めた。しかしながら、近年のアジア、アメリカ、中東、ヨーロッパで起きている様々な事件はむしろ、移民や難民から門戸を閉ざしたり、対話ではなく武力による解決を求めたりするなど、共生はおろか再び対立への道へと逆戻りしている様相を呈している。戦後追い求めてきた共生は見果てぬ夢にすぎなかったのか。グローバル文化学環の教員が、それぞれの分野から情報提供しつつ、共に解決の道筋を模索する。

[科目名] ジェンダー 2 グローバル経済とジェンダー（前期）

[主題と目標] ①経済のグローバル化が私たちの生存のありかたにどのような影響をもたらしてきたのかを、ジェンダーの視点から検討する②フェミニズムが経済のグローバル化をどのように批判してきたのかを学び、自らの知的実践に基づいてその意義について考察する。

[科目名] 国際開発論Ⅱ（前期）

[主題と目標] グローバル化と労働に関わる理論的文献を全員で講読し、討論する。とりわけフェミニスト・アプローチに基づく研究の蓄積に積極的にふれ、グローバル化という現象がジェンダー、エスニシティ、ネーション、階級、セクシュアリティ等の差別の交差性（インターセクショナルリティ）と不可分に結びついていることを理解する。

▶ 2020 年度大学院（人間文化創成科学研究科）

博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

博士後期課程（ジェンダー学際研究専攻）学位取得者

ジェンダー研究所はジェンダーの視点から学際的・国際的な研究を推進する次世代の研究者育成も行っている。IGS 所属教員の指導のもと、2020 年度は以下の院生が博士前期課程を修了した。

博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

【氏名】安藤 真由美

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】日本の金融機関における転勤制度のジェンダー分析

【要旨】

本研究は日本で転勤が一般化した背景とその功罪について家父長制やミソジニー（女性蔑視）などのジェンダー論の観点から考察し、転勤が人事制度及び組織構造に与える影響並びにジェンダー・パターンの実態について明らかにするものである。文献調査と日本の金融機関 8 社において転勤経験をもつ男女 12 人に半構造化インタビューを実施した。転勤を切り口として日本型雇用慣行における課題を炙り出し、問題の解決に向けた一助となることを期待している。

【氏名】高橋 麻美

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】政策における交差性分析の有効性と課題に関する考察——中退支援を事例に——

【要旨】

人々の生きた経験の複雑さを見落とすことなく、いかにそれぞれの生の改善に向け、政策を有効に構築・実施することができるのかという問題意識のもと、「交差性」の概念に着目し、政策における交差性分析の有効性と課題に関して考察を行った。考察に当たっては、日本の若者支援政策の中で推進されている中退支援を具体的な事例に、交差性分析を行った。

【氏名】濱田 真理

【指導教員】申 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】女性議員に対するオンライン・ハラスメントの分析——東京都及び埼玉県の野党女性議員を対象とした事例研究——

【要旨】

オンライン・ハラスメントのターゲットにされる女性議員は数多く存在するが、関連研究は現在ほとんど存在せず、その実態は明らかになっていない。本研究では、議会を構成するメンバーのうち、「女性」、「地方議会議員」、「自民党と公明党以外の政党」、「年齢が若い（50 歳以下）」という属性を持つ人たちに注目して、その人たちがオンライン上で経験しているハラスメントの実態や構造を明らかにする。

【氏名】長谷川 渚紗

【指導教員】中 琪榮（IGS 教授）

【修論タイトル】韓国における同性愛嫌悪に対する性的少数者の抵抗——「包括的差別禁止法」をめぐる論争から——

【要旨】

2000 年代以降の韓国社会において、歴史的・政治的に蓄積され、表出した同性愛嫌悪に対して、性的少数者はどのように抵抗できるのか。韓国における「クィア (퀴어)」に注目し、性的少数者は「判別不可能」な者として、民主主義の欠陥を補完するプロセスのなかで、互いの差異を問題化しながら、固定化された規範や位置を揺るがし、嫌悪や排除の基盤そのものを攪乱する可能性を持っていることを明らかにした。

【氏名】畢 新雨

【指導教員】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修論タイトル】大連の大学生の就職活動におけるジェンダー差別——日本語専攻の女子学生とサービス・アウトソーシング産業に注目して——

【要旨】

本研究は、中国・大連市の大卒女性が就職において経験しているジェンダー差別について、この地域の基幹産業である日本向けサービス・アウトソーシング産業に焦点をあてて実証的に検討するものである。具体的には、文献研究に加え、2020 年 8 月から 10 月にかけて女性 8 名、男性 1 名の調査対象者に対して行った半構造化インタビューに基づき、大連の大学で日本語を学んだ女性たちが就職において経験している差別の実態をあきらかにした。

● IGS 所属教員が副査を務めた 2020 年度博士前期課程修了者・博士後期課程学位取得者と論文タイトル

博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

【氏名】丸山 陽子

【副査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修論タイトル】マンガにおけるジェンダー表現の挑戦——手塚作品と萩尾作品における非典型性別キャラクターの分析から——

博士後期課程（ジェンダー学際研究専攻）学位取得者

【氏名】山本 沙希

【副査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【博論タイトル】「なんとかやる」ことで創られる日常——現代アルジェリア女性の有償家内労働にみる実践的戦術